

◆ 実戦問題3 ◆

昔、*元正天皇の御時、*美濃国に貧しく賤しき男ありけるが、老いたる父を
 ③ 持ちたりけり。この男、山の木草を取りて、その*値を得て父を養ひけり。この
 父、朝夕*あながちに酒を愛しほしがる。これによりて、男、*なりひさごと^{いふ}
 ものを腰につけて、酒を売る家に行きて、常にこれを^⑤乞ひて父を^④養ふ。

ある時、山に入りて、薪を取らむとするに、苔深き石にすべりて、うつおしにま
 るびたりけるに、酒の香りのしければ、思はずにあやしくて、そのあたりを見るに、
 (1) 石の中より水の流れ出づることあり。その色、酒に似たり。汲みてなむるにめで
 たき酒なり。うれしく覚えて、そのち日々にこれを汲みて、*あくまで父を養ふ。
 時に帝、このことを*聞こし召して、*霊龜三年九月に、その所へ*行幸ありて
 御覧じけり。【これすなはち至孝の故に、*天神地祇あはれみて、(2) その徳をあらは
 すと感ぜさせ給ひて、後に*美濃守になされにけり。】その酒の出づる所を^は、養老
 の滝とぞ申す。且つはこれによりて、同じ十一月に、年号を養老とぞ改められける。

設問

傍線③～⑤の動詞のここでの活用形名を記せ。

問1

【1】の部分から四段活用の動詞をすべて抜き出し、さらにその終止形を記せ。

問2

傍線(1)とあるが、この「水」を酒と判断した理由となる事柄を三つ記せ。そ
 れぞれ一語で答えること。

問3

傍線(2)とあるが、「その徳」と同じ内容を表す漢字二字の言葉を二つ、文中
 から抜き出せ。

問4

この文章の内容と合致するものを、次の中から一つ選べ。

① 男は貧しい暮らしの中で、老父のために店で酒を買っていたが、ある日山中
 で酒の香りがしたので不審に思った。

② 貧しい男は、老父に十分な酒を与えることができず苦しい思いでいたので、
 山中で酒を見つけた時は心から喜んだ。

③ 男が見つけた酒を日々飲み続けた老父は、非常に長生きをして人々のうわさ
 に上り、それが帝の耳にも届いた。

④ 帝はある日、神のお告げを聞き、わざわざ美濃まで出向いて徳の高い男を国
 司にした。

⑤ 神々は男の態度に感服し、男の徳を広く世間に知らせるために帝に働きかけ、
 国司任命や年号改元などを実現させた。

出典

『十訓抄』中 六・十八

『十訓抄』は、十三世紀半ばに
 成立した世俗説話集。編者は六
 波羅二麿左衛門入道かといわ
 れているが未詳。年少者に勧善
 懲惡の精神を教えることを目的
 として、教訓的な説話を十項目
 に分けて収録している。

*元正天皇 奈良時代前期の女
 帝。在位七一五～七二四年。

*美濃国 旧国名。今の岐阜県
 の中・南部。

*値 代金。

*あながちに 「強ちに」と書
 く。むやみに。必要以上に。
 異常なまでに。

*なりひさごと ひょうたん。ウ
 リ科の植物で、熟した実の中
 身(果肉・種など)を取り除
 いて乾燥させると器になる。
 水や酒を入れたり、花を生け
 たりするのに使う。

*あくまで 「飽く迄」と書く。
 十分に。満足のいくまで。

*聞こし召して お聞きになっ
 て。「聞こし召す」は「聞く」
 の尊敬語。

*霊龜 奈良時代、元正天皇の
 在位中の年号。

*行幸 帝の外出。

*天神地祇 天の神と地の神。
 天地の神々。

*美濃守 美濃の国の国司。現
 在の岐阜県知事のようなもの。

単語チェック

- ☑ 賤し 形 シク
 ☑ あやし 形 シク
 ☑ めでたし 形 ク
 ☑ 覚ゆ 動 ヤ下二
 ☑ 御覧す 動 サ変